

旭中央病院・宮本さんを職場に戻し

2012年7月18日 第 2 号

千葉県医労連・千葉医福労

発行責任者：永島 謙哉



地域医療を再生させる会 ニュース

延べ20名の仲間が参加

午前は県要請

九月

旭中央病院にも挨拶
午後からは、旭中央病院に對し、結成の挨拶と要請を行いました。

午前中は、千葉県自治体
病院対策室に対し、結成の
報告と挨拶を行いました。
松本会長は「首切り事件で
あり、宮本さんを職場に雇
うまで、最後までたたかう」
と会の立場を明確にしまし
た。対応した小原室長は
「県と市は同格で、県には
調査や指導の権限はない。
あくまで、旭市の病院だ」

央病院・宮本さんを職場に戻し、地域医療を再生させ
る会」は、第1回の旭行動に取り組みました。

A black and white line drawing of three characters in a laboratory or workshop. On the left, a man with short hair, wearing a double-breasted lab coat over a collared shirt, is gesturing with his hands as if explaining something. In the center, a woman with short hair, wearing a light-colored dress, is holding a large, round object with a plaid pattern, which looks like a shield or a drum. She has a surprised or excited expression. On the right, a young girl with short hair, wearing a dark dress with a white collar, stands with her arms crossed, looking towards the woman. The background is plain.

と強調し、長平自治労連委員長からも「こんな解雇の仕方は、県内の公務員職場でも例がない」と前代未聞のデタラメで乱暴な解雇であり、直ちに撤回するよう求めました。

対応した菅谷事務部長は「今日の内容は院長にも伝える」との立場を示しました。最後に会は、「次回は、吉田病院長と会わせるよう」強く求めました。

と責任逃れの姿勢を示しました。会は「病院事務部長に人を送るなど、人も金も流して『県に権限も責任もない』という言い分は住民の誰も納得しない。千葉県には、キッチリと責任を取つてもらう」と告げ終了しました。

第1回旭行動で地域・職員に宣伝と対話 「クビなんてとんでもねえ」「もつと宣伝してくれ」宣伝に反響

「してくれ」宣伝に反響
「病院はどうなつてるんだ」

住民から不
さんが出でて「ピラを下
さい」と求めてくるなど、
大きな反響がありました。
宣伝カーのスポット演説
箇所には、必ず立ち止まつ
て聞き入る地元の人人がおり、
ピラを撒いている仲間と対話も
広がり、「旭中央病院の医師の
質が落ちたから、亀田病院に替
えた」「首切り？そりやとんでも
もない！頑張れ！」「仲間内で
は、最近病院がおかしくなつて
ると話になつてる」「おおいに
宣伝カー使って、宣伝してほし
い」等の声が寄せられました。

病院玄関付近では、積極的に
ピラを受け取りにくる患者さん
も多く、「宮本さんを職場に戻
し、民主化して地域要求に応え
る病院に」の訴えが、共感を得

不満の声 宣伝力一、患者さんへのビラまき、地域住宅へのピラまき部隊に分かれ、宣伝行動を展開しました。

退勤職員にも、ビラ手渡す

1時過ぎからは、手分けをし、退勤職員にピラを手渡しました。受け取りも良く、対話になりました。総務人事部職員が見回りに来た際には、「彼が見ているので受け取れない」と囁いて、ピラを受け取らずに帰る職員もあり、旭中央病院の異常で抑圧的な職員管理体制が垣間見えた瞬間でした。

ながら大きく広
がりました。



次回の「旭行動」は 8月3日(金)

13：30旭中央病院正面玄関集合
御参加お願いします！